

都市再生整備計画 事後評価シート
須坂中央地区

平成23年3月

長野県須坂市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県	市町村名	須坂市	地区名	須坂中央地区			面積	446ha			
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	2,032.3百万円(第7回変更)	国費率	0.409(第7回変更)					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路 ・市道須坂駅旭ヶ丘線(小原河橋歩道設置工事) ・市道高甫南原線(歩道段差解消工事) ・市道須坂南原線(歩道段差解消工事) 街路 ・(都)3.4.8号臥竜線 公園 ・臥竜公園多目的広場整備等 地域生活基盤施設 地域防災施設(市民体育館 ・臥竜山公会堂 ・中央公民館 ・南部地域公民館) ・情報板設置(避難所標識、観光案内板) 庁舎西館耐震工事 → 多目的防災広場整備(市役所西) 既存建造物活用事業(地域交流センター(旧上高井郡役所) ・観光交流センター)									
		提案事業	地域創造支援事業 ・動物園交流施設整備 ・文化会館機器更新 ・各施設耐震診断7事業 ・市役所本庁舎耐震工事 既存建造物活用事業 ・観光交流センター									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設:地域防災施設(保健センター、市役所東庁舎) 高質空間整備(弓町線・カラー舗装、障害者誘導施設)	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	導水管埋設、ポンプ設置 高規格救急車の更新 小山小学校校舎耐震診断 ・事後評価			地元意向の変化 他の補助事業が活用できるため 市単独費による対応		一部の指標に関係するが、数値目標は据え置き				
	新たに追加した事業	基幹事業	道路 ・市道八幡南原線(交差点改良工事) ・市道須坂駅旭ヶ丘線(歩道設置工事) ・市道高梨小山線(歩道設置工事) ・市道銀座通り線(道路整備工事) 地域生活基盤施設(観光交流センター小公園整備、多目的防災広場(市民体育館南)			市街地の交通渋滞の解消、歩行者の安全確保、防災空間の整備 市民プール跡地を多目的防災広場として整備		一部の指標に関係するが、数値目標は据え置き				
提案事業		旧上高井郡役所第2期工事			第2期工事として外構工事を追加		一部の指標に関係するが、数値目標は据え置き					
交付期間の変更	当初 変更	平成18年度～平成22年度 ----	交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響		-----							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	交流人口 (まちぐらの利用者数)	人/年	8,500 H16	9,800 H22		9,500	△	あり なし	● ●	ふれあい館まちぐらは、地元まちづくり組織が運営し、観光客や市民のための休憩処としても利用されていて、「おもてなし」が好評をいただいている。	平成24年4月
	指標2	空き店舗活用(空き店舗数)	店	33 H16	25 H22		35	×	あり なし	● ●	本事業に加え、商店街空き店舗等活用事業等を取組み、空き店舗の活用が図られているが、空き店舗数の減には至っていない。	平成24年4月
	指標3	町並みフェスト (クラシック美術館、笠鉾会館の入館者数)	人/年	1,699 H16	2,000 H22		0 (H22休止)	×	あり なし	● ●	基準年度において、「町並みフェスト」は盛り上がりを見せていたが、主催団体の事情等により近年はその内容、規模などが縮小され、減少が著しい。	平成24年4月
	指標4	来街者数 (須坂市動物園の有料入園者数)	人/年	50,503 H16	60,000 H22		100,000	○	あり なし	● ●	多目的広場、交流施設の整備やアカカンガルーのハッチ人気との相乗効果により入園者数が増加した。	平成24年4月
指標5	避難所・避難場所 (須坂市地域防災計画)	所	25 H16	31 H22		31	○	あり なし	● ●	避難所及び避難場所に指定されている、公共施設の耐震対策及び新たな施設整備が計画通りに進捗し、防災力が向上した。	----	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	旧上高井郡役所利用者数	人/年	0 H16			17,000				歴史・文化をはじめとする様々な市民の交流活動の場や各種歴史資料の収集・整理を行う施設として利用されている。	平成24年4月
その他の数値指標2	観光交流センター利用者数	人/年	0 H16			14,000				市内の観光案内や物産品販売の拠点が整備され、観光客へのホスピタリティーが向上した。	平成24年4月	
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的、文化的遺産である「旧牧郎」が「観光交流センター」として整備され、市内の観光案内・情報の提供や地場産品の紹介や販売の拠点となり、観光客へのホスピタリティーが向上した。併せて、休憩交流スペースを活用し市民と観光客との交流が深まった。 歴史的、文化的遺産である「旧上高井郡役所(地域交流センター)」の整備により、歴史・文化をはじめとする様々な活動及び情報発信の拠点として利用され、また、住民と行政の協働によるまちづくり活動やサークル活動が行われるようになった。 須坂市動物園では、各種イベントが1年を通じて実施され、にぎわいの創出やふれあいのある交流が図られた。 											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	まちづくりの目標を定量化するための指標を追加		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 計画期間内に都市再生整備計画の変更がある場合は、モニタリングを実施し修正を行う。				
	住民参加プロセス	各工事ごとの懇談会や工事説明会		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も地域住民と協力してまちづくりを進め、賑わいの創出、活性化につなげる。				
	持続的なまちづくり体制の構築	地区内のまちづくり協議会で、景観だより、町並みだより、町並み講演会や先進地視察活動などを実施		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 引き続き、横の連帯を図り共創によるまちづくりを進める。				

様式2-2 地区の概要

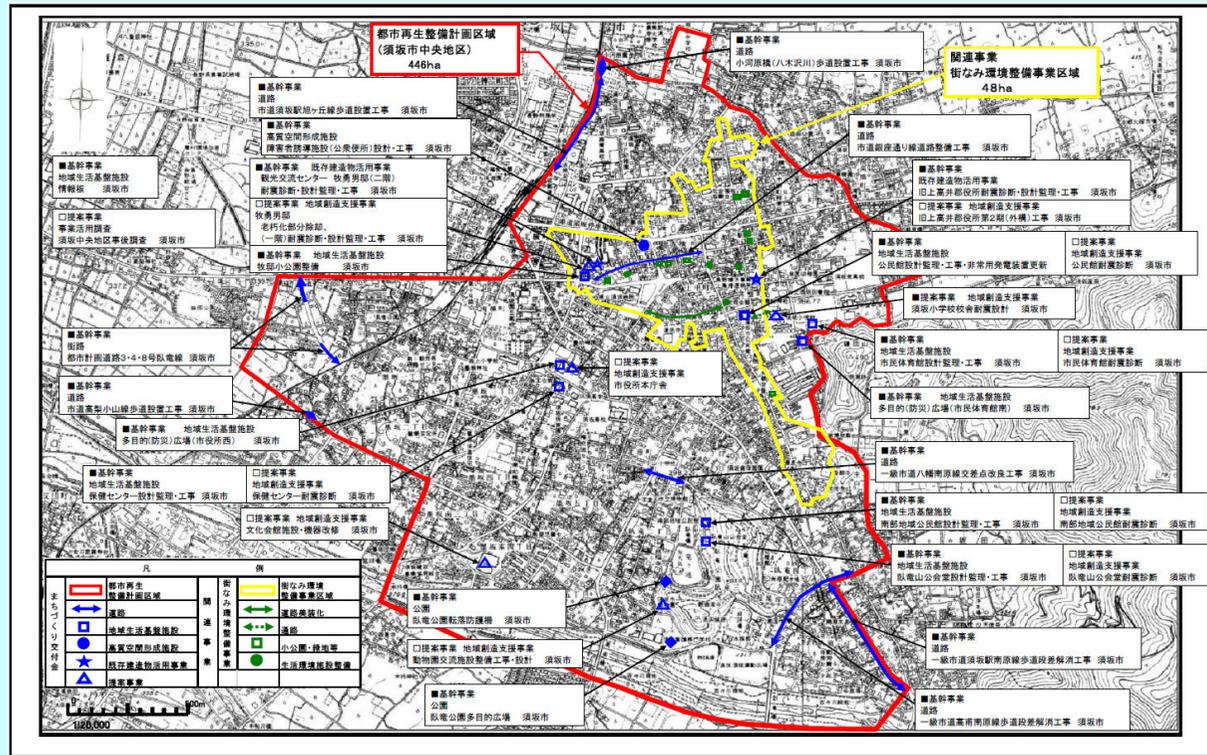
須坂中央地区(長野県須坂市) 都市再生整備計画の成果概要									
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値		
<ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然と歴史的遺産を活かした賑わいやふれあいのある交流、観光のまちづくりを図る。 防災面において地域の防災性・安全性の向上を図る。 地域の交流と活動で支えあうまちづくりを図る。 	交流人口(まちぐらの利用者数)	人/年	8,500	H16	9,800	H22	9,500	H22	
	空き店舗活用(空き店舗数)	店	33	H16	25	H22	35	H22	
	町並みフェスト(クラシック美術館、笠鉾会館の入館者数)	人/年	1,699	H16	2,000	H22	0 (H22休止)	H22	
	来街者数(須坂市動物園の有料入園者数)	人/年	50,503	H16	60,000	H22	100,000	H22	
	避難所・避難場所(須坂市地域防災計画)	所	25	H16	31	H22	31	H22	
	旧上高井郡役所の利用者数	人/年	0	H16	---	---	17,000	H22	
	観光交流センターの利用者数	人/年	0	H16	---	---	14,000	H22	



既存建物活用事業
蔵のまち 観光交流センター



既存建物活用事業
地域交流センター(旧上高井郡役所)



道路事業
市道銀座通り線(歴史的街道すじ)



提案事業
動物園交流施設整備

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・景観に配慮した歴史的街道すじ(市道銀座通り線)の整備が進み、街中への人の誘導が図られ、市民と観光客が交流する機会が増えた。 ・既存建物活用事業により整備された観光交流センターは、観光情報の提供及び地場産品の紹介や販売を行う拠点となり賑わいを創出している。多目的ホールは会議や展示会などに利用されており、自主イベントも積極的に開催し、観光やイベント情報の発信を行っている。 ・旧上高井郡役所は、歴史・文化活動及び市民の交流拠点として活用されており、各種歴史資料の収集・整理を行っている。 ・避難所及び避難場所に指定している、公共施設の耐震対策及び新たな施設整備を行ったことにより、災害時の避難空間が確保された。 ・須坂市動物園交流施設の整備によりボランティアの活動拠点となり、会員数が増加し、交流イベントや体験学習の場として活用できた。また、多目的広場の整備により臥竜公園一体の利用が促進された。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵造りの建物が多く残る歴史的街道すじの整備を促進するとともに、中心市街地への通過交通の流入を抑制し、歩行者の安全性を確保する。 ・後世に残す必要がある歴史的な建物を保存し、観光資源としての利活用するための助成をする。 ・空き店舗等の情報発信と出店に対する助成により、中心市街地の活性化と賑わい創出を促す。 ・避難所に指定している各施設の耐震化は一定の効果を得たが、防災拠点施設を含め更なる地域の防災力向上を図る。 ・大規模災害が発生した際の円滑な緊急物資輸送活動を支援するための拠点施設を整備する。 ・多目的広場やふれあい交流施設の整備により、須坂市動物園の賑わいが創出されており、その効果を持続させる。 ・竜ヶ池周遊路の路面改善や公園管理施設の充実を図る。